

【福島商工会議所 創立100周年記念事業】

ふくしま将来ビジョン

～足腰の強い
「健都ふくしま」を目指して～

平成28年9月

福島商工会議所

ビジョン策定にあたって



福島商工会議所 会頭 渡邊博美

福島商工会議所は、平成 29 年度に創立 100 周年を迎えます。

その間、福島商工会議所は福島市の様々な課題に取り組み、福島市の元気を支え
続けてまいりました。

新しい 100 年を迎えるにあたり、福島商工会議所として、これから福島市が目
指すべきものは何か、それに対して我々はどう取組むかを明確にすべきと考え、「ふ
くしま将来ビジョン」を策定しました。

この「ふくしま将来ビジョン」は福島市の復興・再生に向けたスタートラインで
あり、その実現に向けた取組みを福島商工会議所は積極的に進めてまいります。

皆様には是非、「ふくしま将来ビジョン」をご理解いただき、福島市の将来に向
一緒に取り組んでいただければ幸いです。

ビジョン策定にあたっては、坪井委員長をはじめとする福島商工会議所復興・再
生委員会委員の皆様には十分な協議をしていただくとともに、福島大学人間発達文
化系 初澤敏生教授よりご指導を頂きました。ここに深く感謝申し上げます。

I. ビジョンの概要

1. ビジョン策定の目的

東日本大震災から5年を経過し、国の施策も復興・創生期間を迎え、地方には未だ多くの課題を抱えてはいるものの、自立実現に向けた取組みが求められている。

今後、福島商工会議所に対する期待も高まっていくことが予想されるが、福島市を取り巻く課題も多様化しており、その解決は容易でないことも事実である。

福島市が真の復興・再生を果たすためには、課題の解決を個々（点）で考えるのではなく総合的（面）に捉え、「福島市は何を目指すのか」といった目標（ビジョン）を明確にし、それに向けて取り組むことが必要である。

そこで福島商工会議所では、平成29年の創立100周年を機に、福島市の目指す目標を改めて示すとともに、目標達成に向け取り組むべき課題とそれに対する施策、福島商工会議所の役割を明確にすることを目的とした「ふくしま将来ビジョン」の策定を行った。

2. ビジョン策定の経緯

策定に当たってはまず、福島商工会議所全会員を対象とした実態調査を実施するなど、福島市の現状についての確認を行った。

また、福島駅前周辺街路整備や大原総合病院移転等による中心市街地の活性化、東北中央自動車道の完成に伴う福島大笹生IC周辺の地域開発といった、これから福島市の具体的な動きを把握するとともに、福島市内大学との連携、都市環境整備による定住の促進、交流人口の拡大、県都としての福島市の立場や県北地域としての母都市の役割といった、今後福島市が取り組むべき課題の検討を行い、課題を次の4点に整理した。

1. 福島駅周辺を核とする中心市街地の活性化
2. 福島市の都市形成及び居住環境整備
3. 中小企業支援策の充実
4. 観光振興及び交流人口拡大対策の推進

さらに、これら課題を解決し、将来の姿を描いていくための施策の検討を行い、ビジョンを策定した。

3. ビジョンの理念

足腰の強い「健都ふくしま」を目指して

～「健康（元気）」をキーワードとしたまちづくり・広域連携～

福島市が抱える多様な課題を解決していく視点として、～「健康（元気）」をキーワードとしたまちづくり・広域連携～を掲げた。

未曾有の震災を経験した福島市が、復興・再生を果たし将来に希望の持てるまちづくりを実現していくためには、市民、企業、地域社会が、元気で健康であること、そして人口減少社会の中で広域連携を推進していくことが必要である。

福島市は、県庁所在地としての「県都」にとどまらず、県北の母都市として県北地域を牽引する「牽都」、産学官連携により研究開発を推進する「研都」、広域連携し圏域を構成する「圏都」、災害に強い都市としての「堅都」、広域連携や観光振興により交流人口を拡大する「見都」、軒を連ね賑わいを創出する「軒都」など、様々な役割が期待されている。それらの中心に健康（元気）をキーワードとして、「健都」を据えた。

これを踏まえ、福島市の将来像を～足腰の強い「健都ふくしま」～と位置づけ、展開すべき施策を体系的に整理し、ビジョンとして取りまとめた。

4. 目標年次

おおむね10年後

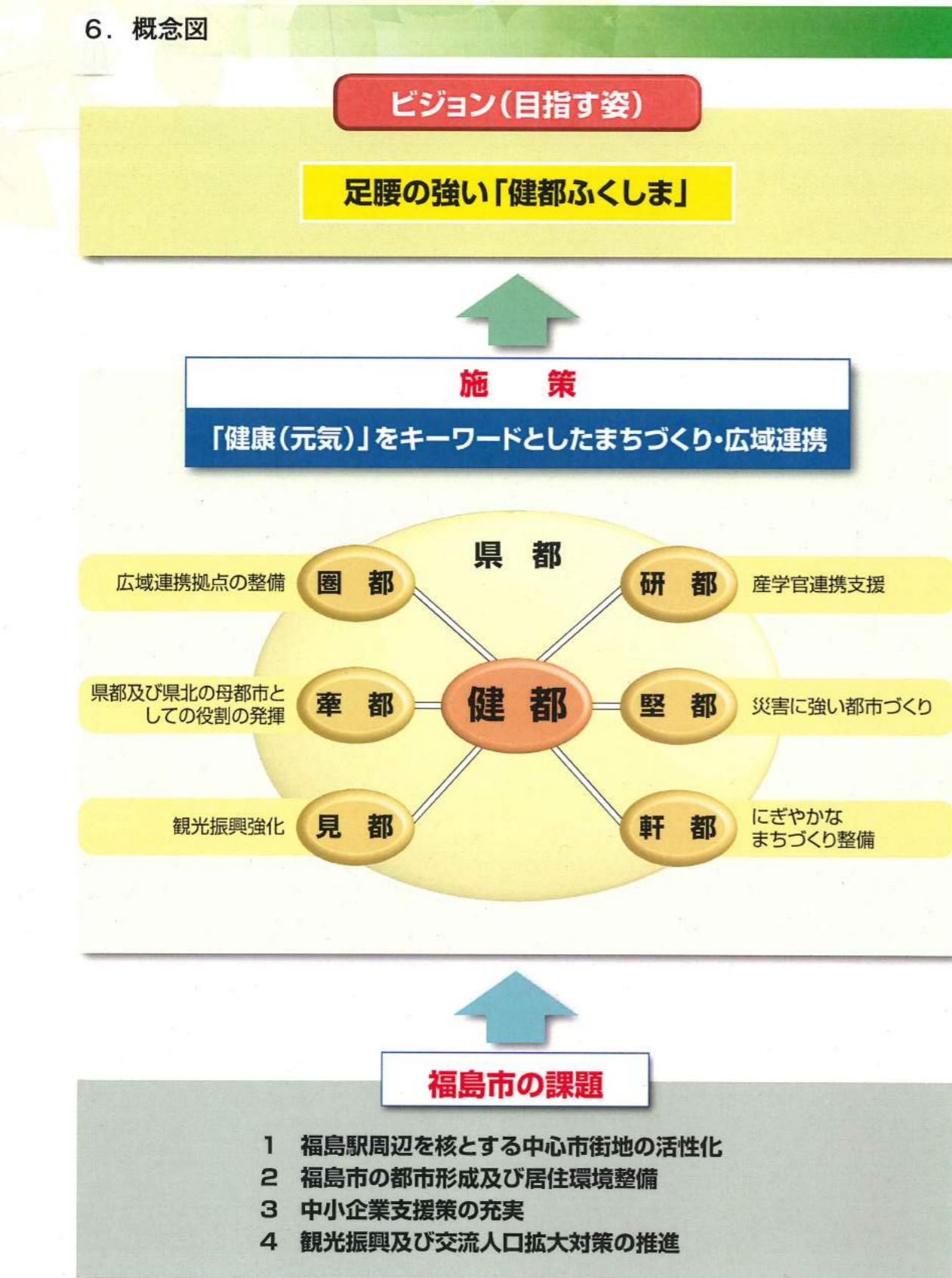
5. ビジョン実現に向けた今後の具体的な取組み

ビジョンは、福島市の真の復興・再生に向けてのスタートラインであり、その実現に向けた具体的な取組み（アクションプラン）が何よりも重要である。

そこで福島商工会議所として今後、次のような取組みを行い、ビジョン実現を目指す。

1. ビジョン実現に向けたアクションプランの策定
2. 福島市をはじめとする関係機関への提言並びに要望活動の実施
3. 福島商工会議所会員への周知
4. アクションプランに基づいた、短期・中期・長期の具体的事業の展開

6. 概念図



II. 福島市の課題

- 1 福島駅周辺を中心とする市街地の活性化**
 - 来街者に優しい、魅力あふれるまちづくり
 - 多くの人が集う集客施設の設置
 - 福島駅東口と西口とを有機的に結び付けるにぎわいづくりに貢献する通路の形成
 - コンパクトシティの形成と拠点整備による賑わい創出
 - 若い世代のエネルギーを活かしたまちの活性化
 - 都心居住の推進
- 2 福島市の都市形成及び居住環境整備**
 - 県都及び県北の母都市としての役割の発揮
 - 基幹道路を積極的に活用した振興、連携施策の展開
 - 人口減少と少子高齢化への対応
 - まちづくりと連携した公共交通の整備
 - 安心と安全を守るためにの都市インフラ強化
 - 情報を活用したまちの魅力の促進
- 3 中小企業支援策の充実**
 - 福島市の経済を担う中小企業の体質強化
 - 産業集積、地域活力を高める新規創業、新分野進出の充実
 - 福島市の産業機能高度化に向けた新産業の育成
 - 従業員の健康増進による生産性の向上
- 4 観光振興及び交流人口拡大対策の推進**
 - 継続的な観光振興強化策による交流人口の増加
 - 外国人観光客に対する環境整備の促進
 - 歴史や文化に根差した福島市固有の魅力の発信
 - 広域連携による交流人口拡大
 - スポーツイベントへの支援による地域振興

III. 足腰の強い「健都ふくしま」の実現に向けた施策

福島市の課題

1

中心市街地の活性化

来街者に優しい
魅力あふれる
まちづくり

多くの人が集う
集客施設の設置

福島駅東口と西口とを
有機的に結び付ける
にぎわいづくりに
貢献する通路の形成

コンパクトシティの形成と
拠点整備による賑わい創出

若い世代のエネルギーを
活かしたまちの活性化

都心居住の推進

2 福島市の都市形成及び居住環境整備

3 中小企業支援策の充実

4 観光振興及び交流人口拡大対策の推進

中心市街地東口地区の振興

西口のにぎわい拠点形成

福島駅新東西連絡
自由通路の整備

回遊動線の整備と
公共施設の再配置

若者のまちづくりへの参画

高齢者・若い世代の
都心居住の推進

施 策

- ・シンボルストリート、街なか広場等の整備による景観形成の推進
- ・大原総合病院移転、福島県立医科大学新学部新設との連携（来街者の増加に対応した商店や産業集積、商店街活性化策等の検討）
- ・既存商店街の活性化と魅力づくり（まちの活力と市民生活を支える商店街の形成と業種・業態の充実）
- ・高度商業機能の集積及び中枢機能の強化
- ・イベント事業の充実

- ・市民に利便性を提供し広域的な集客力を持つにぎわい交流拠点施設の西口への整備
- ・コラッセふくしまや関連施設との連携及び新たな機能導入の推進

- ・福島駅を中心に東西が連携する新たな自由通路の整備
- ・利便性を高め福島のシンボルとなる空間整備

- ・老朽化した公共施設の中心市街地への集約及び再配置の推進
- ・教育施設や公共施設の連携による回遊動線の整備・強化

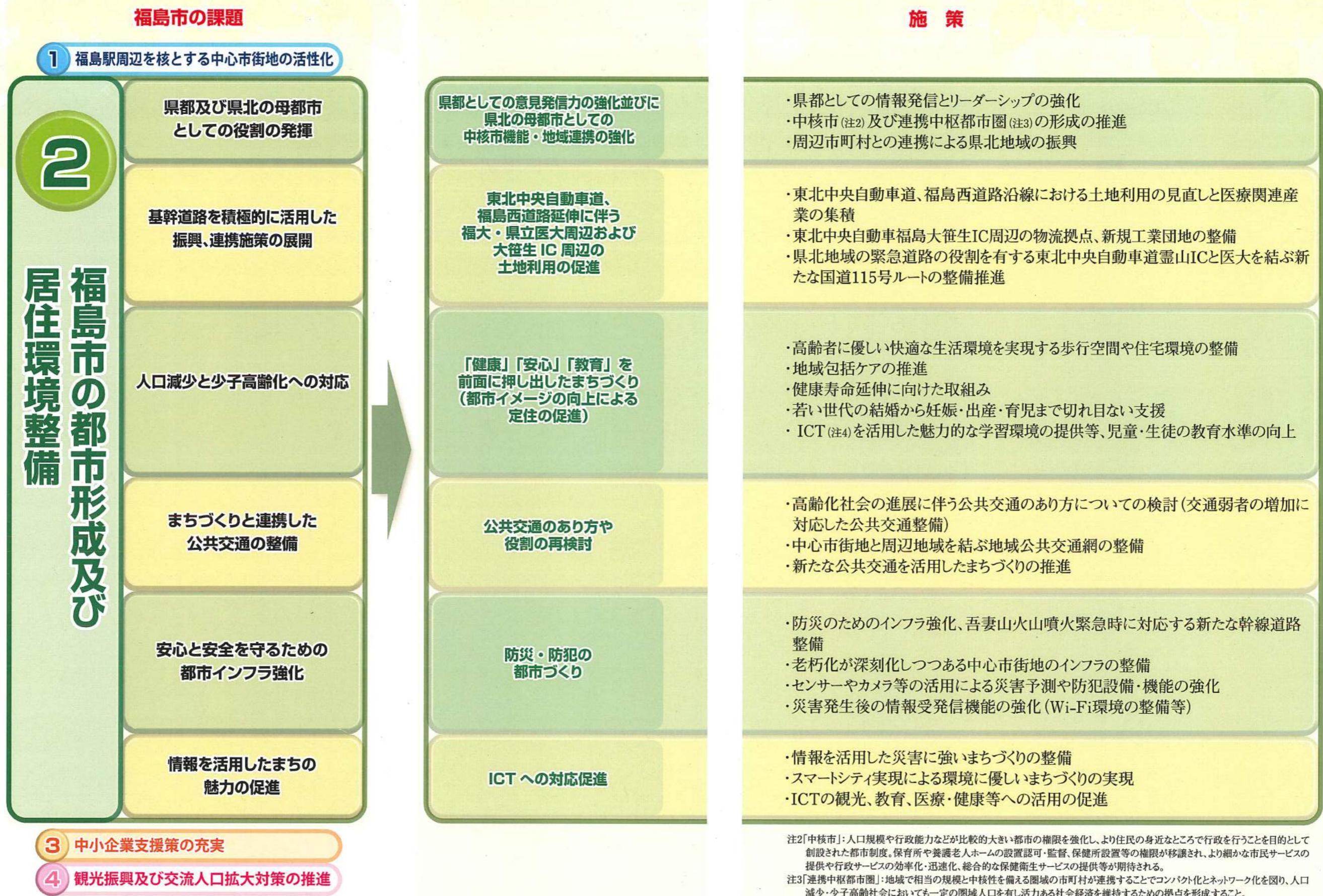
- ・福島県立医科大学と福島学院大を核とした若い世代に魅力のあるまちの創造
- ・市内の学生及び若者をまちづくり活動に取り込む仕掛けづくり

- ・都心居住促進のための環境整備（集合住宅の整備促進およびニーズに対応したサービスの提供等）
- ・日本版CCRC^(注1)等のモデル的な都市居住エリアの整備
- ・空き家対策の推進

注1「日本版CCRC」：Continuing Care Retirement Communityの略。高齢者が地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアができるような地域づくりを目指す。高齢者が積極的に就労や社会活動に参加することによる活性化や、医療介護サービスの活用による雇用の維持が図られるなど、地域へのメリットも大きい。

足腰の強い「健都ふくしま」を目指して

足腰の強い「健都ふくしま」を目指して



注2「中核市」：人口規模や行政能力などが比較的大きい都市の権限を強化し、より住民の身近なところで行政を行うことを目的として創設された都市制度。保育所や養護老人ホームの設置認可・監督、保健所設置等の権限が移譲され、より細かな市民サービスの提供や行政サービスの効率化・迅速化、総合的な保健衛生サービスの提供等が期待される。

注3「連携中枢都市圏」：地域で相当の規模と中核性を備える領域の市町村が連携することでコンパクト化とネットワーク化を図り、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成すること。

注4「ICT」：情報処理・情報通信分野の関連技術の総称。「Information and Communication Technology」の略。

福島市の課題

1 福島駅周辺を核とする中心市街地の活性化

2 福島市の都市形成及び居住環境整備

3

中小企業支援策の充実

福島市の経済を担う
中小企業の体质強化

産業集積、地域活性を
高める新規創業、
新分野進出の充実

福島市の産業機能高度化に
向けた新産業の育成

従業員の健康増進による
生産性の向上

施 策

- 既存中小企業の経営支援の強化
- 人材育成と事業承継支援
- 東北中央自動車道を活かした米沢市・相馬市の事業所や山形大学工学部等との連携の推進
- 大学等をはじめとする研究機関との産学連携の推進
- 工業用地の確保、企業誘致及び地元企業との連携の推進
- 女性の社会進出支援策の推進

- 新規創業者及び創業後一定期間の支援強化
- 業種転換、新分野進出支援の推進
- チャレンジショップへの家賃補助、貸し工場等による創業支援の強化
- 福島大学の新たな農学系教育研究組織と連携した6次化の推進

- 研究機関や行政との連携による新産業育成支援強化
- 進出企業等との連携の推進
- 福島市医産連携推進事業の推進

- 「健康経営[®]」の導入(注5)
- ヘルスケア産業の育成支援
- 従業員の家族介護への支援
- 会員事業所に対する健康ステーション事業の検討

足腰の強い「健都ふくしま」を目指して

4 観光振興及び交流人口拡大対策の推進

注5「健康経営[®]」：従業員の健康増進を重視し、健康管理を経営課題として捉え、その実践を図ることで従業員の健康の維持・増進と併せて会社の生産性向上を目指す経営手法。「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標。

交流人口拡大対策の推進

- 1 福島駅周辺を核とする中心市街地の活性化
- 2 福島市の都市形成及び居住環境整備
- 3 中小企業支援策の充実

4

継続的な観光振興強化策による
交流人口の増加

外国人観光客に対する
環境整備の促進

歴史や文化に根差した
福島市固有の魅力の発信

広域連携による
交流人口拡大

スポーツイベントへの
支援による地域振興

観光振興策の強化

インバウンドへの対応

歴史、文化を活用した
まちづくり

仙台空港や東北中央
自動車道の活用等による
広域連携の促進

福島ユナイテッド FC への支援

施 策

- ・既存観光資源(温泉、磐梯吾妻スカイライン、花見山、信夫山、福島中央競馬場、宮畠遺跡、円盤餃子^(注6)などの食文化や果物等の食材、豊富な花や緑)の活用の推進及び道の駅の整備
- ・新たな観光資源の開発
- ・観光振興の中核組織となる「日本版DMO^(注7)」の推進
- ・事業所における「おもてなし」サービスの向上や新商品開発に対する支援

- ・外国語によるサービスの提供や情報発信、まちなか案内の外国語表記整備
- ・東京オリンピック・パラリンピックを見据えた誘客事業の推進
- ・官民連携でのWi-Fi環境の拡充
- ・西口にぎわい交流拠点における国際会議等への対応とコンベンションの誘致

- ・福島わらじまつりの興隆
- ・福島市の歴史の再発見と活用、福島市の伝統・文化の掘り起しによる魅力の発掘
- ・福島市名誉市民「古閑裕而」氏に関連した各種事業の推進
- ・SNS^(注8)やAR^(注9)等を活用した福島の文化・伝統の発信

- ・相馬市・米沢市方面から観光客・買い物客などを呼び込むための誘致策の検討(通行料金の無料化というメリットを有効活用したPR戦略)
- ・民間化した仙台空港や幹線道路網を活用した、南東北3県にまたがる広域的な観光商品の開発
- ・観光振興のための周辺市町村との連携の推進

- ・J1・J2参入時に不可欠な大規模スタジアムの整備に向けた、民間と行政との密接な連携
- ・地元に根差したチーム作りに不可欠なサポーターづくりへの支援

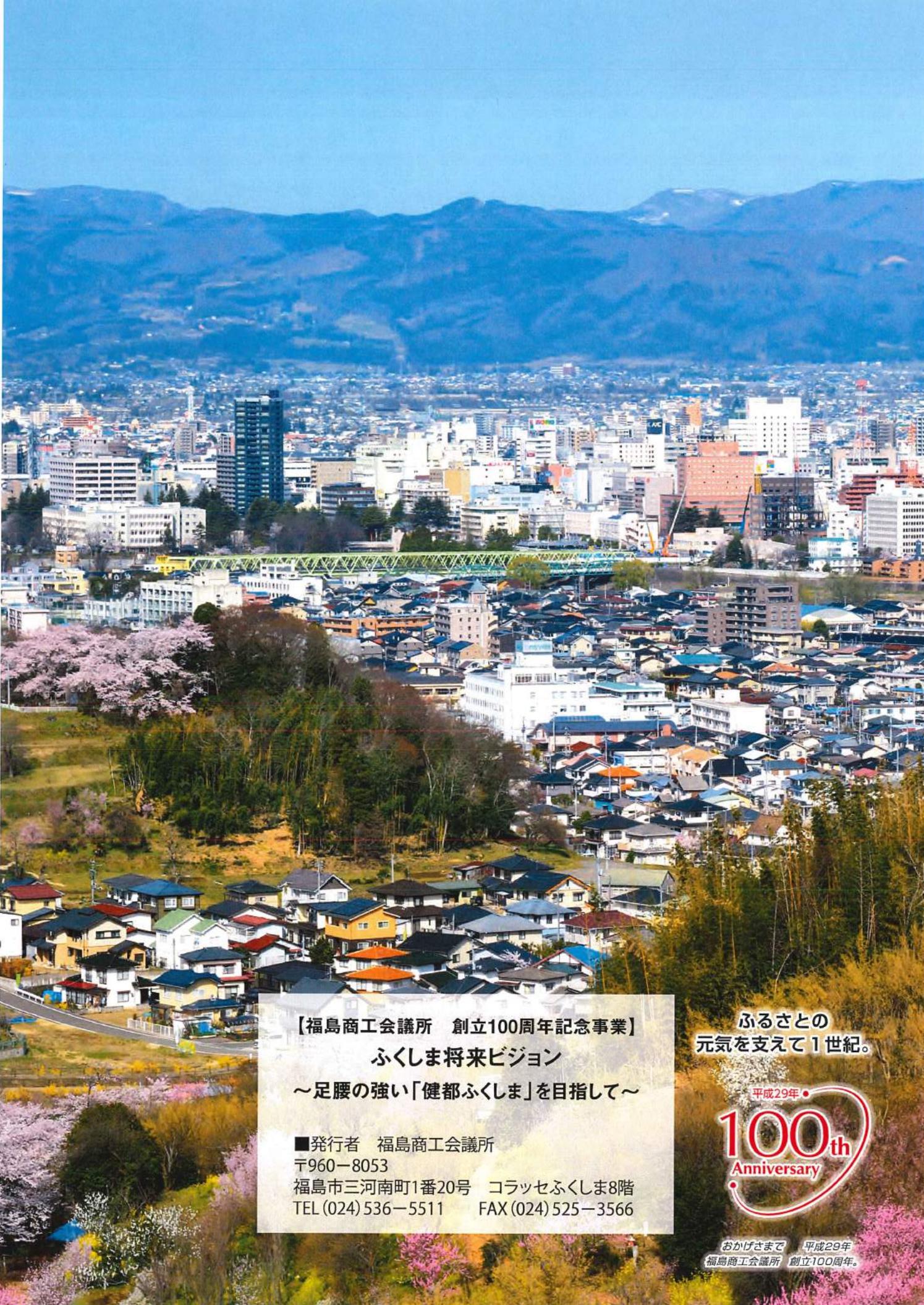
注6「円盤餃子[®]」:「円盤餃子」は(一社)福島市観光コンベンション協会の登録商標。

注7「日本版DMO」:「Destination Management / Marketing Organization」の略。官民協働で市場調査などの手法を用い、経営的な視点から「観光地域づくり」を進める法人。福島市では(一社)福島市観光コンベンション協会が候補法人に登録。

注8「SNS」:Social Networking Service の略で、人と人をつなぎ、コミュニケーションを楽しむためのネットワークをインターネット上で構築するサービス。

注9「AR」:Augmented Realityの略。拡張現実と言い、コンピュータを利用して現実の風景に情報を重ね合わせて表示することで、人間の現実認識を強化する技術。

足腰の強い「健都ふくしま」を目指して



【福島商工会議所 創立100周年記念事業】

ふくしま将来ビジョン

～足腰の強い「健都ふくしま」を目指して～

■発行者 福島商工会議所

〒960-8053

福島市三河南町1番20号 コラッセふくしま8階

TEL (024) 536-5511 FAX (024) 525-3566

ふるさとの
元気を支えて1世紀。



おかげさまで 平成29年
福島商工会議所 創立100周年。